南アフリカ　大臣の訪日と日本向けアボカドの到着

FreshPlaza　2024年8月28日

ロナルド・ラモラ国際関係・協力大臣は、東京アフリカ開発会議（TICAD）閣僚会合に参加するための訪日を終えた。TICADの開会に先立ち、ラモラ大臣は、南アフリカと日本の経済関係強化を目的とした日本貿易振興機構（JETRO）とのビジネス・ラウンドテーブルに参加した。

国際関係・協力省（Dirco）の公共外交部長であるクレイソン・モニエラ氏は、南アフリカ産アボカドの日本への輸出に関するプロトコルの確立（原文のまま）等会議の成果を強調した。このプロトコルは、2℃で19日間の低温処理を義務付けるもので、外交交渉を経て合意された。日本向けアボカドの最初の荷の到着はラモラ大臣の訪日と一致しており、南アフリカからアジアへのアボカド輸出の開始を象徴するものとなった。

モニエラ氏はまた、日本、中国、インドでのアボカドの新市場の開放という南アフリカの経済外交の進展にも言及した。さらに、ジェトロ会議でのラモラ大臣とトヨタの幹部との討論では、トヨタが最近南アフリカの自動車セクターに12億ランド（約百億円）を投資したことに触れ、工業化、雇用創出、変革への潜在的な影響を強調した。

上川陽子外務大臣との会談で、ラモラ大臣は両国の強固な関係を強調し、それは両国の発展に大きな利益をもたらし、国民と国民との強い関係を育むバランスの取れた経済パートナーシップであると述べた。

出典：IOL　　＊訳注：南アフリカ産アボカドの日本への輸入は令和5年11月末に条件付きで解禁されました。

中国　海外市場で人気を集めるナシの新品種

FreshPlaza　2024年8月28日

中国河北省の黄冠梨（フアングアンシリー）は、現在収穫が完了し貯蔵されている。今シーズンは収穫直後に産地から直接輸出される生鮮ナシの量が増えており、貯蔵ナシは8月末から輸出される予定であると報告されている。河北天波（ティエンボ）果業のギャビン・ビアン会長は「市場の需要は高まっており、中国の生鮮ナシ輸出市場は概して昨年よりも好調である」と述べている。（以下「　」は同氏の発言）

「今シーズンの生育期間中は雨が降らず乾燥した状況だったため、生産量は25％減少した。さらに、異常気象により、黄冠梨の傷や日焼けが増え、昨年に比べて高品質の販売用の果実の割合が大幅に減少した。その結果、貯蔵される梨の割合は約4分の1だけ低下した。一方、降雨量が減ったことで、ナシの甘みと味が増した。産地から国内外の市場への収穫後の直接販売は、昨年よりも改善された。」

「品種の面では、黄冠梨は依然として最も人気があり、市場シェアが最も大きい。一方、伝統的な鴨梨（ヤーリー）は数量が減っている。現在、鴨梨の主な輸出市場は、インドネシア、マレーシア、米国、カナダ、ロシア等である。玉露香梨（ユールーシャンリー）と紅香酥梨（ホンシャンスーリー）（原文に写真）は国際的に市場シェアを拡大し、急速に発展していることが注目される。」

ナシの輸出市場の現状について同会長は、パンデミック後の生鮮ナシ部門の購買力は、為替レートの変動、バングラデシュ等の国々の政情不安、イスラエル・パレスチナ紛争、ロシア・ウクライナ戦争、一部の輸入国での貿易障壁の増大などの要因によって影響を受けていると指摘した。

「これらの課題にもかかわらず、今シーズンのナシは味が素晴らしく、市場の需要は増加しており、全体的なパフォーマンスは昨年より良くなった。現在の生鮮ナシの輸出価格は昨年より約20％低いが、輸出量は増加した。中央アジア、ベトナム、インドネシアなど、特定の輸出市場は大幅な成長を遂げている。」

同社は、主に黄冠梨、鴨梨、紅香酥梨、玉露香梨を生産している。これらの中で、玉露香梨はその優れた味によって輸出シェアが増大している。同社は昨シーズン、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポール、ロシア、米国、カナダ、メキシコ、南アフリカに合計3万トン以上の生鮮ナシを輸出した。（以下省略）

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）